

柏市緑の基本計画策定市民懇談会（第4回）

日時 平成20年1月29日（火）午後2時00分

場所 柏市役所第一庁舎4階講堂

次 第

1．開 会

2．挨 拶

3．アンケート調査結果について

4．前回までの会議のまとめについて

5．地域別会議

6．全体会議

7．その他

8．閉 会

柏市緑の基本計画策定市民懇談会 課題の整理

| 全体の課題（共通） | 地域別の緑の課題 | |
|---|--|---|
| | 重要な緑 | |
| <p>市民の意見（懇談会・アンケート）や緑の現況から 樹林地（雑木林・屋敷林・社寺林）や農地を良好な状態で保全していくこと ・手入れし、防犯に役立ち、ゴミが捨てられないようにする ・樹林地を生き物が生息できるなど身近な自然として活用する ・農地（耕作放棄地など）を活用する ・所有者にメリットがあり誇りを持って維持することができるようにする ・保全の優先順位をつけ、担保性を向上していく</p> <p>河川・池沼などの水辺を良好な状態で保全していくこと ・水辺に緑を確保する ・水質を向上する ・水辺を活かした憩いの場をつくる</p> <p>公園やオープンスペースを良好な状態で維持し、また身近に確保すること ・生き物と共生するなど自然が豊かな公園や防災などに配慮した公園とする ・ニーズにあわせて公園のリニューアルや公園内の施設を充実する ・維持管理を充実し利用マナーを向上する ・公園やオープンスペースを身近にバランスよく配置する</p> <p>市街地に緑を確保すること ・緑の少ない市街地を中心に緑を確保する（緑化やオープンスペース） ・道路の緑を増やし、街路樹の剪定に配慮する ・緑の豊かな住宅地などのまちなみをつくる ・学校・公共施設はモデルとなるように緑を整備・保全する ・緑の維持管理を充実する（プランターなど）</p> <p>開発に当たって緑を保全・管理・創出していくこと ・緑や環境に影響を与える開発をチェックする ・開発に際して緑の視点から誘導し（保全・管理・創出）企業や事業者が緑について貢献してもらう</p> <p>事業所・大学・研究所などの大きな敷地の緑を創出・保全・活用すること</p> <p>市民の意識を高めていくこと ・緑は重要であることに対する理解を高めるようにする（苦情で緑が切られている状況） ・環境に対するマナーやモラルを向上する ・緑とふれあい、緑に対する理解を深める機会を増やす ・市民などが参加・協力するための情報提供を充実する ・子どもたちが緑や自然について理解を深めるようにすること（学校との連携など）</p> <p>市民と行政がともに行動していくことや体制を整えること ・行政の取り組みの強化や環境・農政などとの連携（タテ割りの打破） ・所有者・市・市民・団体などの良好な関係をつくる ・近隣市と連携する ・市民や企業が協力・参加しやすい環境や機会をつくる ・市民や団体などが具体的に取り組むなど緑の担い手を育成していく</p> <p>（財）柏市みどりの基金の機能を強化していくこと ・基金の存在をアピールして知らしめる ・緑の保全や創出を支援する働きを強める</p> <p>緑を守り育てる仕組みを整えること ・財源を確保する仕組みを整える ・緑を守り、維持する仕組みを整える ・市民の取り組みを支援する仕組みを整える</p> | <p>北部地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 大青田の森・湿地（オオタカ生息） こんぶくろ池 富勢台の樹林地 あけぼの山公園・農業公園 柏の葉公園とその一帯 松葉町一帯 柏ビレジ・水辺公園一帯 利根川一帯 | <ul style="list-style-type: none"> 大青田の森一帯の保全 北部開発における緑の整備 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">目指す地域の方向</p> |
| | <p>中央地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 社寺の緑（諏訪神社・赤木神社・熊野神社・西光院など） 野馬土手（緑ヶ丘、南柏など） 気象大学校 文京区運動場の緑地 松葉町一帯 大堀川・手賀沼一帯 日本橋学館 寺谷ツの森 北柏ふるさと公園 柏ふるさと公園 高田野鳥公園 | <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地などに緑を確保する（柏駅周辺など） 大堀川一帯の緑の保全や活用 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">目指す地域の方向</p> |
| | <p>南部地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3水源池 ニッカの森 広幡八幡宮 増尾の里山 運動公園周辺の樹林と農地 光が丘一帯 増尾城址公園 酒井根下田の森 中原ふれあい防災公園・隣接林 南部公園 名戸ヶ谷ピオトープ | <ul style="list-style-type: none"> 樹林地・農地と住宅地が混在している特性を活かす 増尾の里山の保全 拠点的な緑の強化 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">目指す地域の方向</p> |
| | <p>沼南地域</p> <ul style="list-style-type: none"> 手賀沼と斜面林、手賀沼自然ふれあい緑道一帯 金山落・染井入落と周辺の斜面林など 谷津田・農地 手賀地区の樹林（猛禽類生息） 大津川と周辺の農地・斜面林 ふるさとの森 沼南の森 手賀の丘公園 大津ヶ丘公園 | <ul style="list-style-type: none"> 緑が多い沼南地域の特性を活かす 沼南地域に人が来る、住む方策（優良田園都市構想など） 斜面林の保全 公園などの整備 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">目指す地域の方向</p> |
| <p>柏市の地域特性から</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域的な緑のあり方を考えていく（首都圏レベル・千葉県レベル） 都市部と田園部のかかわりを考えていく 柏の緑の特性や骨格を強化していく | | |
| <p>社会情勢や上位計画（中期基本計画）から 地球温暖化・ヒートアイランド・生物多様性確保・景観形成・安心・安全などのテーマに対する緑のあり方を考えること</p> <p>手賀沼の保全・活用を進めること</p> <p>環境との共生を図ること ・豊かな水と緑に親しむ環境を守り育む ・環境にやさしい循環型社会を形成する</p> <p>市民との協働・学習交流・定住促進などへの緑からの対応</p> | | |

第4回柏市緑の基本計画策定市民懇談会 ワークショップの手順

H20.1.29

本日のワークショップの目標は、
“市全体や地域の緑の課題を確認し、どのような方向を目指すのかなどを整理し共通認識をもつ”ことです。

0

前回の確認と今回の内容を説明します。

5分

1

市全体や地域の緑の課題について意見を出します。

20分

緑の課題について、追加すべきこと、強調すべきことなどについて意見を出し合います。一人ずつ書いた意見を読み上げながら、地図上にポイントをマークし、ふせんを貼ります。

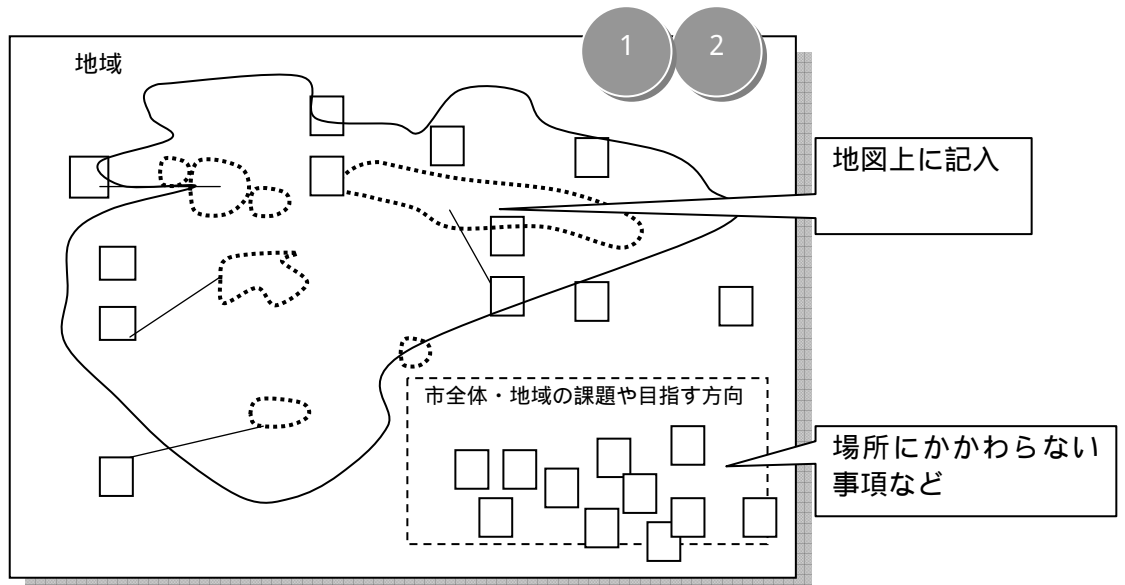
2

地域の方向性などについて意見を出し、
地図上に記入します。

20分

意見シート集約版を参考に、大切な緑を守るために、また問題点を改善するために、今後目指す方向などについてふせんに意見を書き、地図上に記入し課題図をつくります。場所にかかわらない全体的なことは台紙に貼ります。

イメージ



3

地域ごとに発表します。

40分

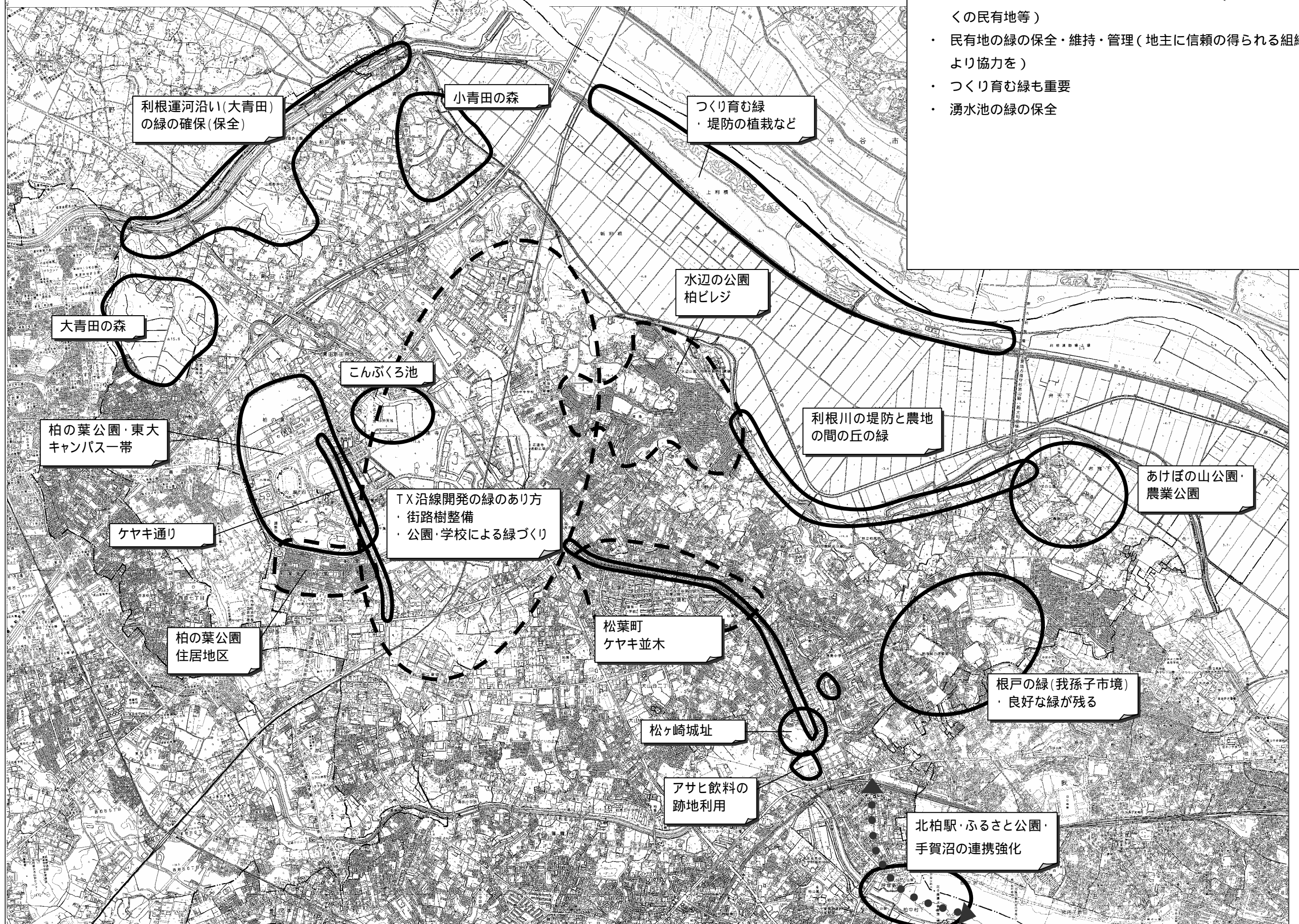
話し合いの内容や感想を発表してください。

北部地域

市全体・地域の課題や目指す方向

方向づけ

- ・ 新たな開発用地については一定の緑化推進を(アサヒ飲料、大青田近くの民有地等)
- ・ 民有地の緑の保全・維持・管理(地主に信頼の得られる組織の紹介により協力を)
- ・ つくり育む緑も重要
- ・ 湧水池の緑の保全



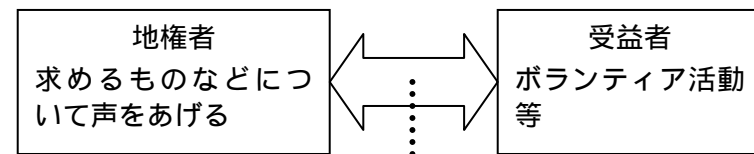
中央地域

市全体・地域の課題や目指す方向

方向づけ

緑の保全

- ・ 相続に対する行政の対応として知恵を出す
- ・ 緑のランニングコストに対する支援（税金の支援等）
- ・ 緑の保全について、地権者の情報と緑の受益者である市民や団体を結ぶ仲介が必要



仲介・支援
(情報提供と人材育成)

人づくり

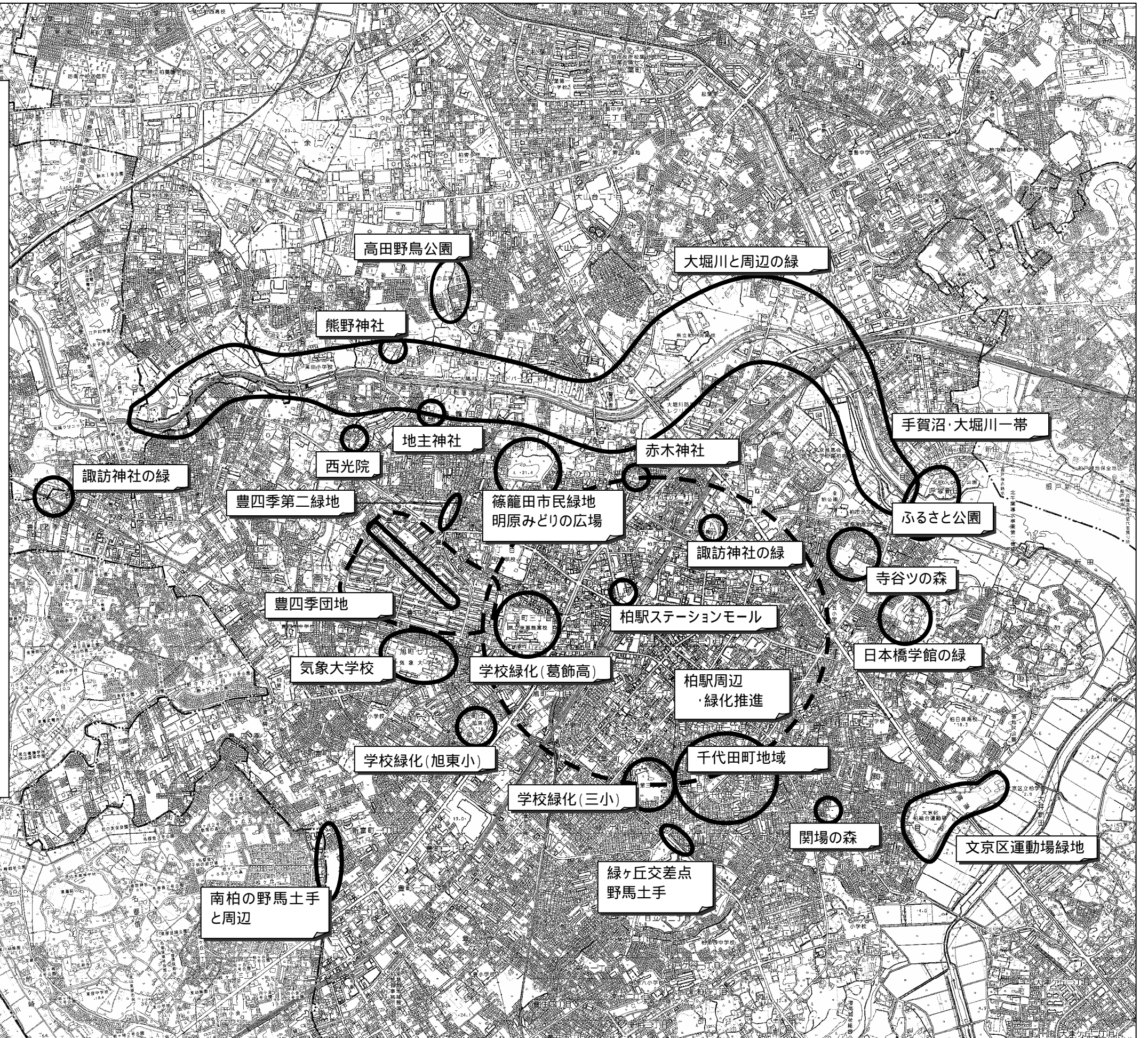
- ・ 森林学校として団体の育成
- ・ 子どもの緑の教育の場
- ・ ふるさと協議会での緑の位置づけ明確に
- ・ 緑の推進員の見直し
- ・ 緑のボランティアや老人会の活用

緑の創出

- ・ 市街地における緑の創出（屋上・壁面緑化）

その他

- ・ 行政でできないことは個人・企業で行う
- ・ 農薬が気になるが、必要であることも理解
- ・ 地球温暖化対策における緑の目標数値を設定



南部地域



増尾の里山
・再生してほしい緑
・里山は増尾だけではない

新柏桜並木
・あまりよくない

増尾城址

第3水源池ほか

広幡八幡宮

ニッカの森

光ヶ丘学園エリア

酒井根下田の森
・周辺を含めて

中原ふれあい防災公園と隣接林 (1.2ha)
・強化してほしい

大津川
・水辺と周辺の田んぼなどの緑
・大津川の整備 (自然をいかしたあぜ道のような遊歩道)

酒井根運動広場の周辺樹林と農地

リフレッシュ公園

小鳥の森公園

南部公園

市全体・地域の課題や目指す方向

方向づけ

拠点の緑

- ・ アンケートでの南部地域の緑の評価は低いが拠点が残されているのが特徴なので強化が必要
- ・ とにかく守るという姿勢で
- ・ 行政・市民・学校のかかわりの仕組みづくり
- ・ 行政・市民・所有者...優先度づけを行い、守るもの守れないもの (開発が進んでいるところ、整備されているかどうか、どのような区分の緑か等)
- ・ アクションプランでの優先度づけ
- ・ メニューを提示
- ・ 民有地の緑の保全・維持・管理 (地主に信頼の得られる組織の紹介により協力を)

緑のとらえ方

- ・ 都市空間として確保する緑と生物の生息環境としての緑
- ・ 樹林地の保全
- ・ 相続税があるので売るしかないとき行政が市民が買う
- ・ 担保性のない緑を守る
- ・ 樹林地を保全する指標を示す
- ・ モデルケースづくり (学校林としての利用)

水辺

- ・ 湧水に恵まれている (破壊が進んでいるが) ので再生に期待
- ・ 水・湧水、歴史文化系も判断する
- ・ 水と緑が大切 - 目を向けてもらえるように

その他計画づくり全般

- ・ 個人の家の緑づくりのための施策
- ・ 学校との連携がどうできるか
- ・ 前回の計画と同じまとめ方はよくない
- ・ 計画の検証も必要

沼南地域

グリーンヒルズ手賀の杜
・緑化推進

手賀沼と周辺の緑

大津川と周辺農地・斜面林
湧水・梨園

手賀川

染井入落

手賀の丘公園

ふるさとの森

大津ヶ丘公園

大津ヶ丘地区
・緑化推進

手賀地区
・優良田園都市構想を

金山落
今井の桜並木

沼南の森
市民の森

個人の林を借りて森林
整備

高柳駅東側
・こもれびや湧水を大切に

市全体・地域の課題や目指す方向

●方向づけ

○緑の将来像

- ・「緑と人間の共生」をうまく図る
- ・優良田園都市構想は緑も残せるし、人も増やすことができる（手賀地区で検討されてきた）

○緑の保全

- ・今ある緑はできれば本来の形として残したい（大津川周辺等）
- ・残せるものなら残したい、寄付できるものなら寄付したいというのが地権者の本当の気持ちである
- ・保全するためには税（相続税）に尽きる—独自のものを検討したい
- ・手賀の丘公園は、相続に対して緑を保全するモデル的な手法であった

○その他

- ・緑の二酸化炭素を吸収し、酸素を放出する機能をもっとアピールすべき

第4回

柏市緑の基本計画策定市民懇談会

意見シート

地域名： 北部 ・ 中央 ・ 南部 ・ 沼南 （ を付けてください）

氏名

意見シート

平成 20 年 1 月 29 日

柏市緑の基本計画策定市民懇談会

地域名： 北部 ・ 中央 ・ 南部 ・ 沼南

氏名 _____

1．柏市の緑の将来像として望む姿、目標などについて、ご意見がありましたらお書きください。
(目指すべき将来の方向、キーワード、キャッチフレーズなど)

2．今年度の市民懇談会の感想などをお書きください。

3．来年度の市民懇談会に望むことなどについて、お書きください。

2月15日までに、ファックス(04-7167-7668)またはE-mail(koenryokusei@city.kashiwa.lg.jp)でお送りください。

第4回市民懇談会

平成20年1月29日(火)午後2:00~

質疑応答

・重要な緑のピックアップの仕方について、どのように行うのか。環境部サイドで自然環境調査を実施しているが、その調査の中でこんぶくろ池から来る水路に量的な生物が確認されている。自然環境調査会では本年3月に調査をとりまとめるので、緑の基本計画に取り入れて欲しい。

事務局

本年度生態系の調査を実施しているので、自然環境調査のデータがあれば取り入れてまとめたい。

重要な緑は、各人の思い入れや生活に係わり深いものが揚げられるため、抜けている・入っているものもある。客観性にに基づき、「どうしてこの緑が重要なのか」、や「生物の多様性から見た観点から必要」など切り口を明確にして、表現がおかしいものは、整理していただきたい。

事務局

地域別会議の中で検討をお願いしたい。

発表

北部地域

・北部地域の課題として挙げられたものに、湧水地の保全を加えたい。

重要な緑として追加したいものは、北柏駅・ふるさと公園・手賀沼の連携、根戸エリア(我孫子市の根戸との連坦)、利根川の土堤と農地間の丘の緑(水辺公園に連坦)、松ヶ崎城址周辺、大青田と小青田の森・利根運河沿い・利根川リバーサイド・利根川遊水地、TX沿線開発の緑などがある。

民有地の緑の保全については、地権者と市民との関係を市が仲介していくことが求められる。

新たな開発に際しては、街路樹や宅地の緑の確保や公共施設の緑化推進を強化したい。地域の核としての緑を確保したい。また開発と緑のすみ分けが必要である(例:公設市場の移転先には、緑地と開発地との間にグリーンベルト配置したい)。

守るみどりだけでなく、造るみどりの工夫が重要である。Ex:原っぱや堤防に樹木等の植栽を行なう。

中央地域

・柏駅周辺は緑が少ないが、中央地域には寺社林、地域に根ざした緑(松葉町など)、気象大学、日本橋学館、大堀川、文京学園などの緑がある。

・中心地においては緑を増やす必要があるが、壁面緑化や屋上緑化が有効ではないか。

・樹林地などの所有者と地域の人とのコミュニケーションを市が仲介するなど、関係をつくることが重要である。

・緑が減っている現実に対して相続税対策などの行政の対応が必要である。

・緑のランニングコストに配慮し、固定資産税などの減免などの支援が必要である。

・講座などを通してボランティアなどを育成し、守る活動を行うこと、その活動を支援すること、

子どもたちの教育の場として活用することなどが必要である。

- ・ 市街地農地の農薬については、居住者と耕作者の相互理解が必要である。
- ・ 地球温暖化対策として、二酸化炭素の吸収などの緑の役割・位置づけを明確にする必要がある。

南部地域

- ・ 新たな計画づくりに向けて、どのような方向とするかを中心に具体的な話し合いを行った。
- ・ 拠点の緑の強化が重要である。具体的なメニューを提示し、優先順位をつけることや、行政・市民・所有者のかかわりの仕組みづくりが必要である。
- ・ 課題には水辺も追加したい。大津川の周辺の農地を含めて整備や、自然を活かしたあぜ道のような遊歩道が必要である。
- ・ 緑の保全などについて指標をもつことにより、説得力をもつことができる。
- ・ 計画を実現していくために、具体的な手法を提示していく必要がある。

沼南地域

- ・ 沼南地域は、大きく2つの地域に分けられる。開発された住宅区域と森で覆われた区域である。緑・緑と言ってもそれを管理する人の問題があり、調整区域がほとんどの沼南区域の最大のテーマは、「緑と人の共生」に向けてもっていくことであろう。そのために旧沼南町で検討してきた「優良田園都市構想」を実現していくべき。
- ・ ローレルヒルズ手賀の杜は、緑地が14%というが、とてもそのように感じられない。少しでも多く緑を残してもらいたい。
- ・ 緑は多くあるが、相続が発生すると売らざるを得ない。相続税対策が一番重要である。その意味で手賀の丘公園の手法はモデルであった。
- ・ 大津川周辺の湧水や緑は、本来の形で残したい。

(全体会議)

北部地域

- ・ みどりに関して興味を持っている人もいるので、植栽等の指導や相談も重要である。今後は、地域レベルでの活動についての議論をしていくべきである。
- ・ 造る緑、育む緑も重要と考える。緑地はバランス良く、保全の工夫お願いしたい。緑の保全には地域の人々の力が必要と考える。
- ・ 守るだけでなく、つくる緑の提案が出来れば良いと考える。
- ・ だんだん様子が判ってきた。
緑を守ることはとても大変ではあるが、なんとかして守っていきたい。黙っていると緑が無くなる。
- ・ 本日の議論も非常に勉強になった。

中央地域

- ・ サミットなどで二酸化炭素排出の議論が取り上げられているように、地球環境を守るため地球規模での議論が必要である。CO₂の削減について本基本計画も位置付けてほしい。家庭部門のCO₂の排出量が延びているので意識して対応すべきである。

- ・また，市内でも高層マンションの乱立傾向にあり，気をつけなくてはならない。
- ・高田野鳥の森など貴重な緑が拠点として位置づけられている。是非残していきたい。
- ・駅付近は緑が少ないので，造るみどりが重要である。
- ・緑に対して勉強になった。緑の育成管理など緑の基本計画に位置付けるべきと考える。
- ・市民ができない部分は行政が，市民ができる部分は市民が汗を流すべき。
- ・ふるさと協議会，社会福祉協議会，老人会への補助金について，緑の活動に対して特別会計で別枠にて補助を出すなど考えられるが。
- ・中央地域は緑が少ない。世代が変わり、土地が細分化されていく。どう緑を保全していくか広報していかななくてはならない。緑に対する PR をもっと行うべきである。

南部地域

- ・参加するたびに，山林所有者としてますます自分にできることで，頑張っ保全に努めたい。
- ・基本計画に骨格・拠点の緑を死守する。緑地の保全の必要性について，何らかの指標・視点を捉えて言及し，見直しをして欲しい。緑地の保全は，優先順位，メニューを提示すべきである。地域の市民として緑地の保全が必要ならお金を出す必要がある。例えば市民債などをメニューに入れるなど。
- ・個人では森の清掃（月2回）行っている。自分たちで出来る仕事として四季を通じ活動している。小さな林などを守りたいと思っている方は柏市に多々いる。個人的に守りたいものを出来るだけ拾えるものにして欲しい。今の計画をもう少し具体性をもたせ，市民が見て解り易い計画にしてほしい。
- ・また計画に具体性が欠けていることが問題ではないか。
- ・市街地の相続税は，市街地を処分するのと同じであることが判った。市民もお金を出す覚悟でないと保全は難しい。
- ・開発に歯止めが掛からない以上，より実行性のある計画になって欲しい。

沼南地域

- ・調整区域は将来どうなっているか。手賀地区が何か別の良い形で緑が残せないか。
- ・緑を残すためには，人為インパクト（共存）が必要である。緑を残すためには人も住む方法も考えて欲しい。
- ・この会に出席することが出来て良かった。緑を守ることは人間を守ることであり，システムが出来れば良いと考える。
- ・緑，ミドリと結構であるが、手賀地区は30年前と今とはほとんど変わっていない。優良田園住宅を実現してほしい。

総括

- ・TX 沿線のつくば市では，現在マンション開発ラッシュである。つくば市の緑地は財務省と UR が大きい土地所有者である。財政上の問題から今財務省所有地が民間に売却され開発が盛んに行われている。用地のすべてを公共の土地にすればよいというわけでもない。財務省の所有地は原則入札による処分が原則である。つくば市の状況を柏市との対比事例として紹介したい。緑の基本計画の

作成は、従来地は行政と学識経験者はトップダウンという考え方である。一方、近年市民サイドからの意見を尊重したボトムアップ化を取り入れてきている。トップダウンとボトムアップは一長一短があり、相対化することが計画策定にとって有益である。どういう緑を守るのか考える必要がある。(貴重だからか、絶滅しないようにか)

- ・ 柏市ではどういう緑を守るのか。貴重になったから守るのか。貴重になるから守るのか。 量を守るか質を守るか。量はお金が必要であり、質を守るには労力が伴う。目の前に対象があり、個別での位置付けが必用になる。どうやってコーディネートしていくか、具体的なメニューをつくる必要がある。